

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月17日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 292-0834

住 所 千葉県木更津市潮見四丁目14番地9

法人名 株式会社ハマダ

代表者 安藝 真一

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0438-36-7721

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社ハマダ		
事業場の所在地	千葉県木更津市潮見四丁目14番地9		
計画期間	令和7年4月1日	から	令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：建設業 中分類：総合工事業
②事業の規模	1,477,513,549
③従業員数	35
④産業廃棄物の一連の処理の工程	解体工事に伴う産業廃棄物の発生 →コンガラ・アスガラ・木くず・がれき類・廃プラ・混合廃棄物・繊維・ガラス陶磁器・金属くず・紙くず・石膏ボード・水銀使用製品・石綿含有建材・廃石綿・建設汚泥等の建設産業廃棄物の選別・処理施設への搬入 →処理委託先での適正な処理方法・判断により処理

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工事部

- 各現場担当者（現場確認・管理・産廃処理業者の選定）
- 工事部事務（マニフェスト管理・搬出済み産廃の集計及び管理）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	0 t	t
(これまでに実施した取組)			
解体分別時に、出来る限り可能に再資源化できるように選別を実施			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
解体分別時に出来る限り再資源化できるようにするため、自社作業員及び協力会社作業員に選別の教育と指導を行う。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 重機による破碎・選別後、安全の範囲内にて作業員による手作業での再選別を実施
	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記作業を安全に留意して、リサイクル可能物を出来る限り選別するよう図る
②計画	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量		t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
①現状	(これまでに実施した取組)		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
②計画	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
①現状	(これまでに実施した取組) 各処分場の処理方法を検討した上、環境により配慮した施設を優先的に利用する		

【目標】		
②計画	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
(今後実施する予定の取組) 現在利用している処理施設のみならず、より環境に配慮した施設があった場合には積極的に検討し利用していく		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項									
①現状	【前年度（令和6年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品	ガラ陶：石綿	がれき：石綿	混合：石綿	繊維くず	がれき類	廃プラ	廃油
	排 出 量	0.15 t	0.02 t	62.46 t	0.78 t	6.16 t	569.08 t	76.16 t	14.04 t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品	ガラ陶：石綿	がれき：石綿	混合：石綿	繊維くず	がれき類	廃プラ	廃油
	排 出 量	0.15 t	0.02 t	61.52 t	0.77 t	6.07 t	560.54 t	75.02 t	13.83 t
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項									
①現状	【前年度（令和6年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品	ガラ陶：石綿	がれき：石綿	混合：石綿	繊維くず	がれき類	廃プラ	廃油
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品	ガラ陶：石綿	がれき：石綿	混合：石綿	繊維くず	がれき類	廃プラ	廃油
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 0	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項									
①現状	【前年度（令和6年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品	ガラ陶：石綿	がれき：石綿	混合：石綿	繊維くず	がれき類	廃プラ	廃油
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
②計画	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	【目標】								
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品	ガラ陶：石綿	がれき：石綿	混合：石綿	繊維くず	がれき類	廃プラ	廃油
③目標	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

